

関西国際大学機関リポジトリ

KUISs-MAPS

Title	先天性心疾患をもつ女性へのライフプランニング教育プログラムの開発
Author(s)	田所, 潤子
Issue Date	2024.3.12
Degree Name	博士 (看護学)
Degree Grantor	関西国際大学

[論文内容の要旨]

論文題目 先天性心疾患をもつ女性へのライフプランニング教育プログラムの開発

専攻分野 家族支援看護学分野

氏名 田所 潤子

指導教員 齋藤 益子 教授

本研究は、先天性心疾患（congenital heart disease 以下 CHD）をもつ女性に対するライフプランニング教育プログラムを開発したものである。そのため研究 1 では成人先天性心疾患（adult congenital heart disease 以下 ACHD）女性が、妊娠・出産に関して受けてきた情報について明らかにし、研究 2 では作成した暫定版プログラムの有用性ならびに教材運用の適切な対象層について明らかにした。

I. ACHD 女性が受けてきた妊娠・出産に関する情報提供と希望する情報(研究 1)

【目的】 ACHD 女性が、妊娠・出産に関して受けてきた情報提供および希望する情報を明らかにし、暫定版プログラム教材の基盤とすること。

【方法】 研究協力者は、全国心臓病の子どもを守る会・心友会（以下、患者会）に所属する ACHD 女性 7 名であった。1 人あたり一回の半構造化面接を実施し、許可を得て録音した。面接によって得られたデータは、質的記述的に分析した。録音データから逐語録を作成し、当事者が受けてきた情報提供および当事者が希望する情報に焦点を当て、コード化しカテゴリ化を行った。

【結果】 協力者は 29～48 歳で、全員入院・手術の経験があり、現在も 1～6 か月に一度の通院を要していた。7 名のうち 5 名が既婚、子どもがいる方は 4 名であった。

当事者が受けてきた情報提供は 4 カテゴリ、22 サブカテゴリであった。**【情報提供を受けた時期】**は〔高校生くらい〕や〔結婚を意識したタイミング〕で、**【提供された内容】**は、妊娠の可否などであった。当事者が希望する情報は 7 カテゴリ、18 サブカテゴリに分類され**【話を聞きたかったタイミング】**や、聞きたかった内容が挙げられた。

【考察】 情報提供のタイミングは 1 回目〔10 代のうちに〕、2 回目〔結婚を意識したタイミング〕の 2 回が望ましいと推察された。当事者が希望する内容は、〔妊娠できるのかどうか〕などの**【早い段階から聞いておきたかったこと】**と〔ネガティブな情報も知りたい〕などの**【より具体的にききたかったこと】**に分けられ、前者は概ね希望通りに情報提供を受けていたが、後者は希望通りの情報提供を受けられていないことが示された。その後、初期プログラムを作成し、専門家によるスーパーバイズを受け内容妥当性の検討をした結果、対象を AYA 世代（15～39 歳）に絞り暫定版プログラムを作成する必要性が示唆された。

Ⅱ. 暫定版プログラムの有用性ならびに教材運用の適切な対象層の検討(研究 2)

【目的】暫定版プログラム教材の有用性ならびに教材運用の適切な対象層を明らかにし、確定版プログラム教材の基盤とすること。

【方法】暫定版プログラムは、一次研究の結果を受け作成し、内容妥当性の検討を行ったものである。研究協力者は、患者会に所属する 15～39 歳の CHD・ACHD 女性で、暫定版プログラムを視聴してもらったのち、Google form にて無記名質問紙への回答を依頼した。プログラムの有用性に関しては研究者が作成した構成的および自由記述式の質問を用い、教材運用の対象層検討には性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度(河田ら, 2014)を用いた。分析には混合研究法を用い分析した。プログラムの有用性について、構成的質問は記述的統計および内容分析により分析した。教材運用の対象層の検討のため、対象の属性によるヘルスリテラシーの差を明らかにするために、基本統計量算出後、Pearson の χ^2 検定およびロジスティック回帰分析を行った。

【結果】研究協力者は 98 名であった。プログラムの有用性については 7 割以上が肯定的な回答であったが、タイトルのわかりづらさや文字色、表現からネガティブな印象を受けるとの回答が得られた。また「パートナーに理解してもらうことが非常に難しかった経験」が複数見られた。対象の属性によるヘルスリテラシーの差では、 χ^2 検定では年齢、婚姻状況、性交経験が $p<.05$ となり有意差が認められた。更にロジスティック回帰分析では年齢(25-29 歳)および性交経験の有無に有意な相関関係が認められた ($p<.05$)。

【考察】疾患があることによりネガティブになりやすい当事者に対して、文字色や表現を変更することにより教材の有用性が高められることが明らかになった。また、パートナー向けの内容を挿入し、CHD 女性が安心して自身の望むライフプランを構築、実現できるように支援していく必要性が示された。更に、CHD・ACHD 女性の属性によるヘルスリテラシーの差の結果により、教材視聴の対象層を 25-29 歳および性交経験がある場合に絞り込むことで、プログラム内容をより受け止めやすくなると推察された。

以上より、暫定版プログラムに追加・修正を加え、確定版プログラムの完成に至った。また、第 1 次研究、第 2 次研究の結果から、本研究で完成したプログラムは 25～29 歳以上、性交経験がある場合の妊娠・出産を具体的に考え始めた AYA 世代後半を対象に、運用することが最適であることが示唆された。

キーワード

先天性心疾患, プレコンセプションケア, ライフプランニング, プログラム開発

[Abstract]

Title

Development of a life-planning education program for women with congenital heart diseases

Major Fields of Study Family Support Nursing Course

Student Name Junko TADOKRO

Professor Supervisor Masuko SAITO

This study was to develop a life-planning education program for women with congenital heart diseases (CHD) and adult congenital heart disease (ACHD), dividing into Research I and II.

I . Information on pregnancy and childbirth received by women with ACHD and the information they had needed (Research 1)

[Objective]

The purpose was to clarify the information on pregnancy/childbirth received by women with ACHD and the information they had needed.

[Methods]

A semi-structured interview was conducted with 7 women with ACHD belonging to “Children’s Heart Disease Association of Japan” (Patient Association). The data were qualitatively and descriptively analyzed.

[Results]

Of the participants (29-48 years old), 5 were married and 4 had a child(ren). The information they had received were assorted into 4 categories and 22 sub-categories. **【A time when they received the information】** was [Timing when they got conscious about marriage], and **【The information provided】** was probability of pregnancy, etc. The information they had needed was assorted into 7 categories and 18 sub-categories consisting of **【Timing when they wanted to know the information】** and the contents of information needed.

[Discussion]

The preferred timing of information-provision was firstly [In teens] and secondly [Timing when they got conscious about marriage]. It was shown that **【Information they had wanted to know more concretely】** was **【Information needed at an early stage】** like [Whether I can become pregnant] and [Negative information].

II. Examination of the usefulness of the tentative education program and the eligible target persons for the educational materials (Research 2)

[Objective]

The purpose was to clarify the usefulness of the tentative education program and the eligible target persons for the educational materials.

[Methods]

The participants were women between 15-39 years of age belonging to the Patient Association. After viewing the tentative program, they were requested to answer an anonymous questionnaire via Google form. For analysis, Mixed Methods Research was used.

[Results]

Ninety-eight participants were involved. More than 70 % of them were positive about the usefulness of the program, but some had a negative impression aesthetically from the font color and wording of the program. Some women had [Experiences of difficulties in being understood by the partner]. Concerning the difference in health literacy, a significant correlation ($p < .05$) was observed in age (25-29 years) and presence/absence of sexual experiences.

[Discussion]

The usefulness of the education program was enhanced by improving the font color/wording and by including contents for partners. Furthermore, it was necessary to narrow the eligible target down to women of 25-29 years old and those who have sexual experiences. Thus, the final education program was completed, which is considered best for women of the latter AYA generation; “25-29 years or older”, “having sexual experiences”, and “beginning to think about pregnancy/childbirth”.

Key words: congenital heart disease, pre-conception care, life-planning, program development